

あつた三十二世帯に対し、除雪サービスの決定を行いました。

▽保健・医療関係

●十一月十八・十九日、本年度最後の特定健診とガン検診を実施しました。また、乳がん、子宮がん検診を十一月四日に、保健センターで実施しました。

●高齢者に対するインフルエンザの定期予防接種助成は、村広報十月号で周知を図っていますが、今年度より自己負担額が千円で接種できるように負担額の引き下げを行いました。今後流行が予想されることから、多くの方が接種されるよう望むものであります。

●糖尿病講演会については、本年度は女性大会とコラボし、十一月二十日に自治センターにおいて、コンサドーレ札幌専属栄養士であります株式会社ウエルネスプランニング札幌代表取締役小松信隆様により「体によさそう？が生活習慣病予防になる？？」と題して講演をいただきました。

▽農業関係

●本村の水稲生産数量ですが、四千八百十二畧の水稲作付け可能面積に対して、二千二百一十一畧の水稲作付け実績となり、転作率は五十四・〇畧となりました。

●ライスファクトリーでは概ね一万四千五百畧の受け入れで、製品としては約十八万俵と見込まれております。

●今年で五年目となりましたグリーンツーリズムの取り組みですが、五月三

十一日のホクレン農感塾を皮切りに、広島城北高校が十月二十六日から二泊三日で行った農家体験までの十六回で、農家延べ六十三戸で合計二百九十九人を受け入れ、農村の文化、生活を肌で感じ取っていただきました。

●「多面的機能支払交付金事業」ですが、農地・水保全管理支払交付金同様に全村全地域を対象としており、村全体で約四千九百九十七畧、支援総額は農地維持支払・資源向上支払合わせて一億八千三百八十七万円（うち、村負担額四千五百九十六万八千円）の計画となっております。

●果樹試験圃ですが、キャンベル、ナイアガラなど、無農薬のぶどうをしんしのつ産直市場で販売しましたが、購入されたお客様から高い評価をいただいたところがあります。

また、都市との交流や村の農産物のPRを図るため、七月二十四日には、「厚別区民まつり」の近隣市町村コーナーにおいて、JA女性部の協力により野菜などの直売を行いました。野菜は、全て完売する盛況ぶりです。安心・安全な村の農産物を大いにアピールしました。

▽建設工事関係

●近年の異常気象に対応すべく、除雪専用車一台を新規購入し機動力の強化を図り、十月二十六日には村道及び公共施設の除排雪委託業務を発注しました。

教育行政報告

▽教育委員会関係

●蜂屋寿雄教育長が任期満了に伴い十一月三十日付けをもって勇退し、その後任として、十一月二十四日の村臨時会において荒谷順一郎氏が新教育長に選任され十二月一日、村長から辞令が交付されました。

また、十二月一日開会された教育委員会臨時会において、新制度の移行により早川仁史教育委員長が、教育長職務代理者に、齊藤孝史教育委員長職務代理が、教育委員にそれぞれ任命されました。

▽小学校関係

●十月二十四日、第三十八回学芸会が行われました。

●十一月十二日 明年、入学予定の男子九名と女子十名の計十九名が、小学校において「発達検査」と「就学時健康診断」を行うとともに、学校行事の紹介や、学校内の見学を行いました。

●開村百二十年の記念事業として、十月二十七日には、全校児童による「人文字 120」をグラウンドに表現しました。

●十一月二十五日には、陸上十種競技のオリンピック選手、右代啓祐氏を招き、トークや実技を披露いただきました。体育館に右代選手が登場すると、子供たちからは「大きい」「カッコイ

教育長 荒谷 順一郎

い」など大歓声が渦巻き、バック宙や高跳びなど迫力ある実技に魅了されていました。

▽中学校関係

●九月二十七日、第四十九回学校祭が開催されました。

▽高等養護学校関係

●十一月十三日・十四日の両日、高等養護学校において、平成二十七年度的新高祭が行われました。

▽社会教育関係

●十一月二日、小学生の子どもたちと高齢者のふれあいを深め、お年寄りの知識や技能を伝承する「ふれあい塾」の閉校式が行われました。

●十一月一日から十一月三日の三日間、学習の成果や文化活動の発表の機会として毎年、「新篠津村総合文化祭」を開催し、三日間で、述べ九百二十一名の方々が鑑賞されました。

●十一月二十二日、新篠津村連合青年団創立七十周年記念式典・弁論大会・祝賀会が開催されました。記念式典では、連合青年団長から第五十代団長から第七十代団長、十九名に感謝状を贈呈しました。

●子どもが読書に対する興味や関心を高める機会として、十一月二十八日、初の試みとして「自治センター図書室まつり」を開催いたしました。